

## 4. トラブルとその対応事例

### 4-1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

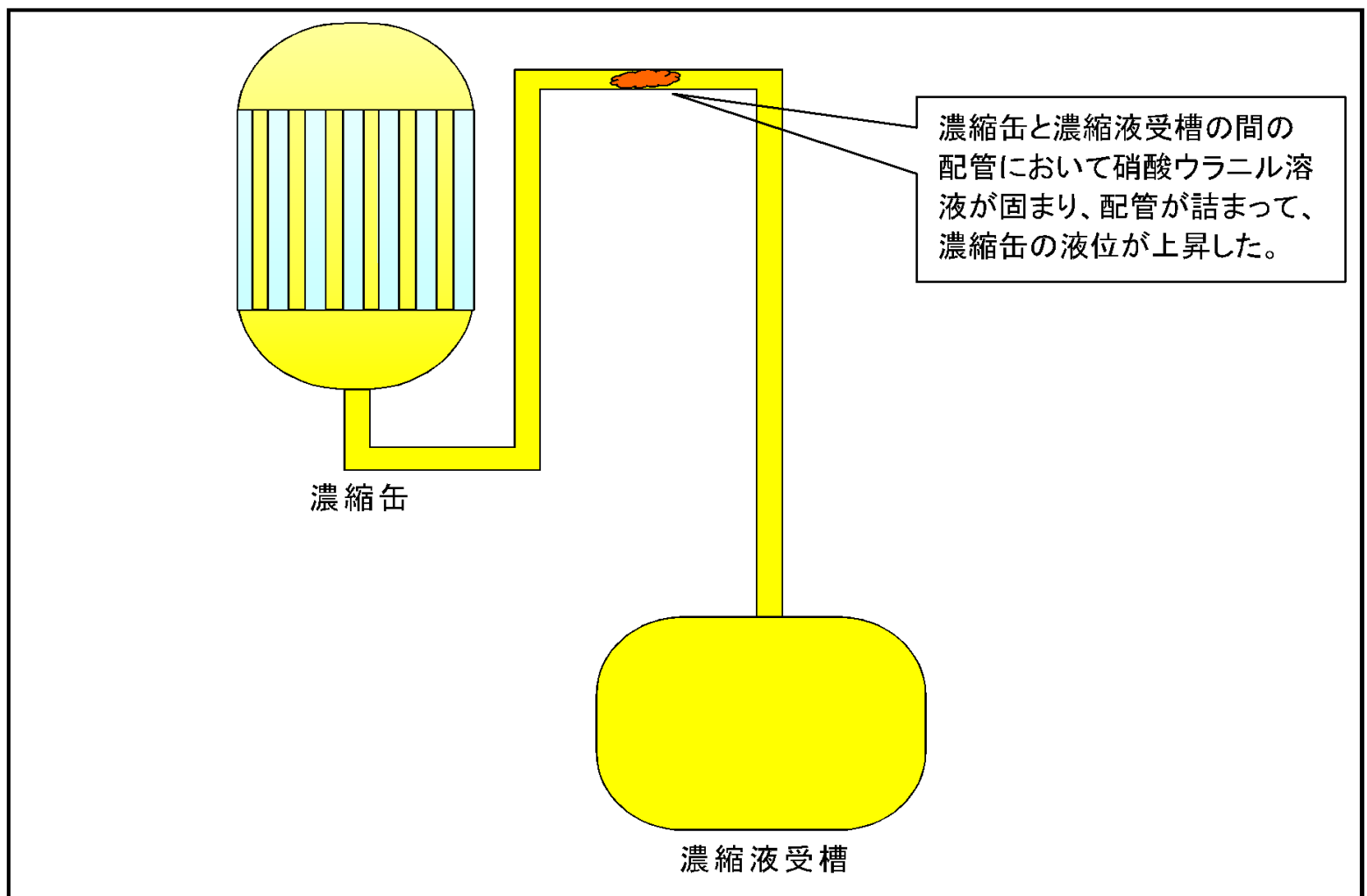
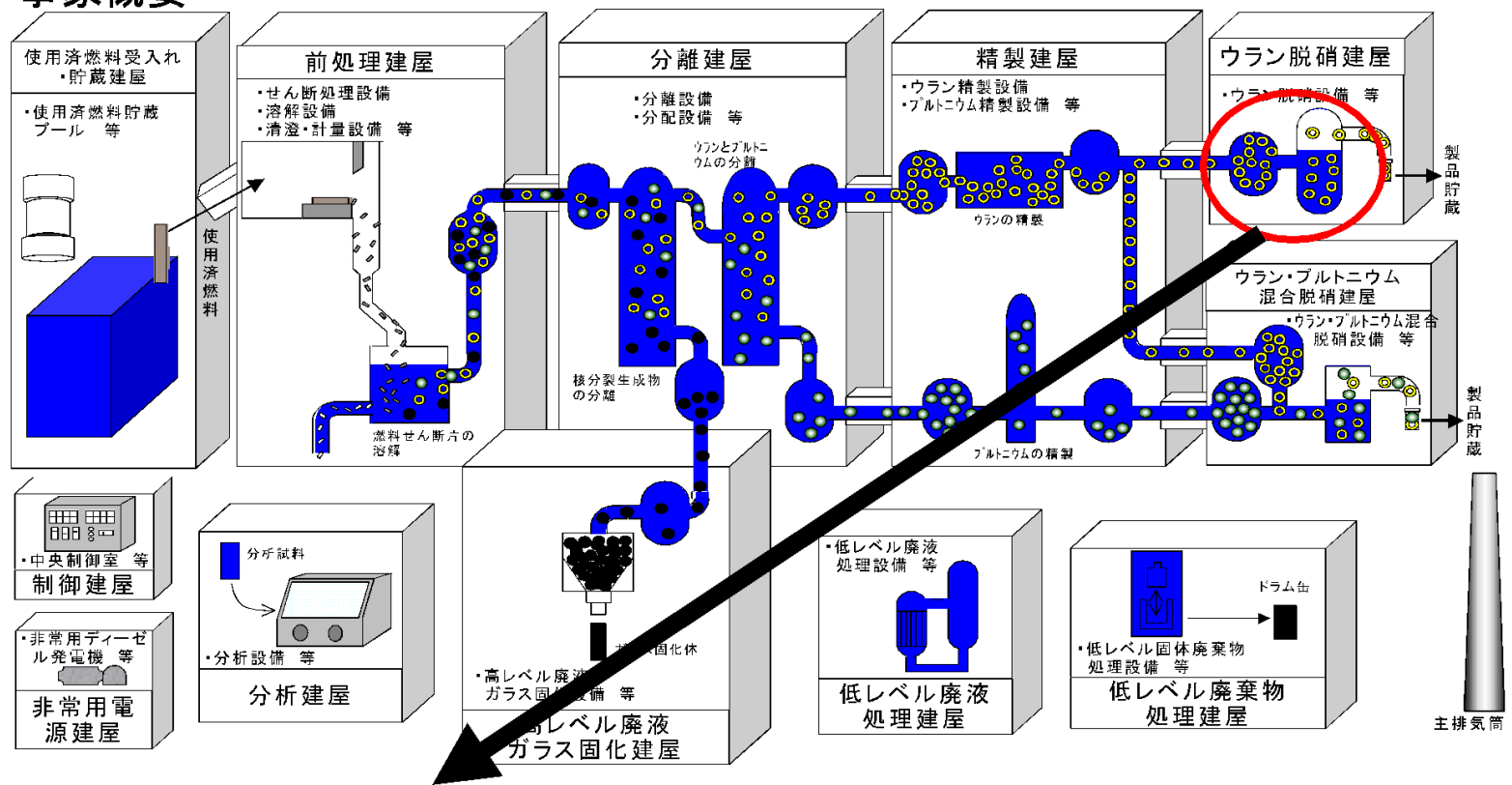
#### 事象分類別 ( a. 詰まり・堆積 )

#### 1-27. 濃縮缶からの溶液を移送する配管における詰まり

<p>事象の概要</p> <p>(1)発生場所：機器</p> <p>(2)設備の概要</p> <p>(3)発生の状況</p> <p>(4)概要</p> <p>(5)原因</p>	<p>ウラン脱硝建屋：濃縮缶</p> <p>精製建屋から受け入れたウラン溶液を脱硝塔で粉末状態にする前に、濃度調整のため、蒸発処理する装置。</p> <p>濃縮缶の運転中</p> <p>濃縮缶と濃縮液受槽の間の配管で硝酸ウラニル溶液中のウランが析出して配管の詰まりが生じ、濃縮缶の液位および圧力が上昇し、濃縮缶の加熱が停止。</p> <p>運転を継続することで発生する詰まり（予め対応手順を定めている）。</p>												
<p>事象による影響</p> <p>(1)工場外への影響</p> <p>(2)安全性への影響</p> <p>(3)作業員への影響</p> <p>(4)他工程への影響</p>	<p><b>工場外への影響は生じない。</b> 放射性物質を除去するフィルタ等を有するウラン脱硝建屋塔槽類廃ガス処理設備が稼働している配管内の事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質の漏えいを伴うものではない。</p> <p><b>安全上の問題は生じない。</b> 配管の詰まりに伴う濃縮缶の圧力高を検知して、濃縮缶の加熱、濃縮缶への硝酸ウラニルの供給は確実に自動停止し、さらに濃縮缶の液位を監視し、液位高警報が発報した場合手動で停止させるため、これ以上事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p><b>作業員への影響は生じない。</b> 配管の詰まりの復旧作業にあたっては、定められた放射線管理計画書に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。</p> <p><b>上流、下流の工程の運転に影響が生じる。</b> 濃縮缶の停止に伴い、下流のウラン脱硝建屋内におけるウラン脱硝工程の運転に影響が生じる。さらに上流側のウラン精製建屋以前の工程は、その中間にある一時的な貯留槽（硝酸ウラニル貯槽）の残液量で運転継続の可否を判断する。</p>												
<p>対応の概要</p>	<p>1. 詰まりの原因は配管加熱装置のヒータの温度低下が原因であることを確認し、配管加熱装置の作動状況を確認する。</p> <p>2. 定められた作業手順に従って、詰まり部を加熱して溶かし、定められた操作手順に従い運転を再開する。</p>												
<p>公表区分</p>	<p>毎月集約して月1回公表（ホームページへ掲載）</p>												
<p>連絡区分*</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="3">トラブル情報</th> <th colspan="3">運転情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 16.6%;">A情報</td> <td style="width: 16.6%;">B情報</td> <td style="width: 16.6%;">C情報</td> <td style="width: 16.6%;">ごく軽度な機器故障</td> <td style="width: 16.6%;">清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td> <td style="width: 16.6%;">不適合等</td> </tr> </tbody> </table>	トラブル情報			運転情報			A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報										
A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等								

\*：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

# 事象概要



**復旧方法**  
清掃や調整により復旧

**トラブル等に伴う設備への影響範囲**  
影響の範囲の設備を停止して復旧